



R3・9・21  
富岡保育園  
年中・年少 No.9



田んぼの畔に、たくさんの彼岸花が吐き乱れる季節となりました。Aちゃんが、スイミングのバスから見える彼岸花を見つけて「せんせい！花さき山の花がさいているよ！！」と教えてくれました。「花さき山」と言うのは、絵本のなまえで1969年初版のミリオンセラーです（50周年だそうです）。10歳の少女あやは、山菜を取りに行った山で、白髪の山姥とで会います。山姥は山に咲き乱れる一面の花を指さしながら、優しいことをすると山に一つ花が咲く。辛いことを我慢すると山に一つ花が咲くのだと語ります。

この話を讀んだ後、「花さき山」の歌を手話で子どもたちに紹介しました。すると、子どもたちの心にも響いたのでしょうか。「お友だちが優しくったんだよ。ありがとう」などと話をすると「せんせい、今お花が咲いたかもしれんね」とこちらが、予想もしないことを口ずさむのです。子どもって、なんて純粋なんだろうと思ひ、この綺麗な心、優しい心を汚してはいけないと肝に銘じるのでした。貸し出しでも「おれ、花さき山かりよう！！」と人気の絵本です。どうか親子で楽しまれてください。

その他、この頃絵本の貸し出しで人気なのが「カブト三十郎シリーズ」や恐竜の絵本、やはり昔からいい本だと言われるベストセラーの絵本です。お家で毎日絵本を讀んでもらっているBちゃんは、絵本が大好きで時間があると絵本を讀んでいます。先日貸し出しの際に「先生、絵本1冊しか借りたらダメなの？」と言うので「えっ？どうして、2冊も借りたらママが讀むのが大変でしょう」と答えると「ママが、讀めない時はパパが讀んでくれるよ」とのこと。「それならどうぞ！」と貸し出ししました。その後、Bちゃんが、2冊借りているのに気づいて、「私も！」と一人二人と2冊借りていく子が増えてきます（笑）右に、こんな記事を見つけました。一緒に考えましょう。

### 子どもはみんなアーティスト

荻北町広報9月号に子どもたちの写真が掲載されます！！

この日、段ボール箱に絵の具で思い思いに塗ったり、描いたり、手で触ったりと自由に表現する楽しさを味わいました。子どもたちの真剣なまなざしは、まるで小さなアーティストのようでした。



### いっしょに考えましょう

子どもたちを見ていると、絵本を持って保育士が座ると、どんなに他の遊びをしていても、「あっ、先生は今から絵本を讀んでくれるんだ」と自分で気づいて自分から座れる子がいます。それは、年少さんであろうと年長さんであろうと関係ありません。しかし、そんな事は、全く関係なしで、そのまま遊び続けている子もいるのです。この頃この違いはなんだろうと考えています。そして少し見えてきたのは、いかに小さいときからお家で絵本を讀み聞かせをしてきたか、こなかったかの違いではないかなと思えるようになってきました。どんなにわんぱくの子でも絵本が始まると飛んできて真剣に聞き入っている子もいます。反対に、なかなか座れず、何回もいわれてようやく座わる子がいます。幼い頃からずっと絵本を讀んでもらった子は、絵本の楽しさを知っているから楽しい時間と思えるのでしょう。

そんな時こんな本を讀みました。

「実る子育て 悔やむ子育て」新開英二著 エイデル研究所出版

#### 「教育」のまえに大切にしなければならないこと

家庭教育であれ、学校教育であれ、教育が成立するためには、教育云々の前に大切にしなければならないことがあります。それは信頼関係です。この信頼関係の根幹をなすものが、基本的信頼感です。基本的信頼感とは、自分はこの世に生きることを認められた存在であるという「自信・自尊心」と、この世は自分が生きるうえで誰かが守ってくれる。許してくれるという「人間信頼」です。

子育て・保育の出発点は、基本的信頼感を結ぶことから始まります。幼い子どもに基本的信頼感がなければ、何をやっても砂上の楼閣になってしまいます。そんな事例がたくさん目につくようになってきました。

基本的信頼感の上に

- ① 人の話を聞くことができる。
- ② 人に話をするすることができる。
- ③ 人に自分の考えを伝えることができる

という就学までに身につけなければならないレディネス（学習が成立する条件または準備）を積み重ねることが大事です。このレディネスの土台をなすものは、基本的信頼感であることに間違いありません。

そして、物言わぬ子どもと基本的信頼感を結ぶための鉄則は、

- ① 一対一で関わること、
- ② 目と目を合わせる。視線を合わせること、
- ③ 人間の生のボイスシャワーを振りかけてあげること、です。

しかし、こんな簡単なことができにくくなっています。なぜできなくなったのか？それは、2つの背景があると思います。一つ目は、テレビやビデオなどの映像機器やコンピューター、携帯電話等の文明の利器の登場です。二つ目は、子育てを伝承してこなかったことと、子ども時代に幼い子どもとの接触不足などです。

絵本の読み聞かせを介在として、指示命令語でない生のボイスシャワーを子どもたちにたくさんふりかけ、大人と子どもで楽しむこと、その時間を共有することが、子どもにとっての「最初暦」です。「生育暦」が問われる事件が増加しています。小学校に入学してから云々を考える前に。さらに、生きる力が身につけていない幼い子どもたちの「最終暦」を気にする前に、彼らの「最初暦」をじっくりと、ゆっくりと積み重ねてほしいと願っています。その一つが「読み聞かせ」です。

「実る子育て 悔やむ子育て」より抜粋